

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎1	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: ー
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネスの場面で求められる日本語表現やビジネスマナー、しきたりなど幅広い知識を身につける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	これ一冊で仕事の全てがわかる！日本で働くための本		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第1章 Unit1 仕事の心得	学生と社会人の違いや、社会人として仕事をする上で重要なことについて学び、社会人として望ましい行動がとれるような知識を身につける。
	2	第1章 Unit2 仕事での態度	仕事での話し方や聞き方、依頼・謝罪の方法について学ぶ。
	3	第1章 Unit3 仕事の進め方	仕事を進める上で重要な報告・連絡・相談や優先順位のつけ方、個人情報を含む情報管理について学ぶ。
	4	第1章 Unit4 人間関係	会社での上下関係や、敬語の使い方、上司や同僚との付き合い方、ハラスメントなど、仕事上での人間関係について学ぶ。
	5	第1章 まとめ(事例から考える1～4)	それぞれの事例についてディスカッションを行った後、確認問題に取り組む
	6	第2章 Unit1 第一印象の大切さ	第一印象の大切さについて、身だしなみ・あいさつ・おじぎの観点から学ぶ。
	7	第2章 Unit2 立ち居ふるまい	社会人としての立ち居ふるまいとして、姿勢や物の受け渡し方、ドアの開け閉めの方法について学ぶ。
	8	第2章 Unit3 名刺交換	名刺交換の方法について学び、実践する。
	9	第2章 Unit4 来客対応	来客対応の基本として、席次や案内の仕方、お茶の出し方について学ぶ。
	10	第2章 Unit5 企業訪問	企業訪問や社外での打ち合わせの方法について学ぶ。
	11	第2章 まとめ	確認クイズを行い、これまでの内容について振り返りを行う。
	12	第3章 Unit1 ビジネスメール	ビジネスメールの書き方やメールでよく使う表現について学び、ビジネスメールが書けるようになる。
	13	第3章 Unit2 ビジネス文書	ビジネス文書の基本を学び、社内・社外文書が書けるようになる。
	14	第3章 Unit3 電話対応	電話対応の基本を学び、電話を受けたりかけたりできるようになる。
	15	第3章 Unit4 会議	会議の基本やプレゼンテーションの基本について学ぶ。
	16	第3章 まとめ	確認クイズを行い、これまでの内容について振り返りを行う。
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎1		指導担当者名	石井陽寿	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年		国際ビジネスマネジメント科 1年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: ー	
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネスの場面で求められる日本語表現やビジネスマナー、しきたりなど幅広い知識を身につける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	これ一冊で仕事の全てがわかる！日本で働くための本				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	第4章 Unit1 異文化理解	察しの文化やパーソナルスペースなど、ビジネスに係る異文化コミュニケーションについて学ぶ。また、企業によって異なる文化について学ぶ。		
	18	第4章 Unit2 日本のしきたり	日本の冠婚葬祭やお中元、お歳暮、贈り物について学ぶ。		
	19	第4章 Unit3 食事のマナー	日本の食事のマナー、お酒のマナーについて学ぶ。		
	20	第4章 Unit4 個人宅訪問	個人宅を訪問するさいに気を付けなければならないことなどについて学ぶ。		
	21	第4章 まとめ	確認クイズを行い、これまでの内容について振り返りを行う。		
	22	第5章 Unit1 自己分析①	自分の過去・現在・将来について時系列で書き出す。また、書き出した一つ一つを深掘していく。		
	23	第5章 Unit1 自己分析②	自己分析①で書き出したことを整理し、現在の自分と向き合う。また、将来について具体的に考える。		
	24	第5章 Unit2 企業研究①	業界研究、職種研究、企業研究の目的とその方法について学ぶ。		
	25	第5章 Unit2 企業研究②	実際に自分の目指す業界・職種・企業について調べ、まとめる。		
	26	第5章 Unit3 応募から内定まで(就職活動)	日本での就職活動の流れを学ぶ。		
	27	第5章 Unit3 応募から内定まで(応募書類)	応募書類の種類や書き方について学ぶ。		
	28	履歴書の作成①	自身の履歴書を作成する。		
	29	履歴書の作成②	自身の履歴書を作成する。		
	30	第5章 Unit3 応募から内定まで(面接)	面接試験の種類や流れ、方法について学ぶ。		
	31	面接練習①	面接 練習を行う。		
32	面接練習②	面接 練習を行う。			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識A (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・1章 読み物1	講義、練習問題
	2	1章 読み物2	講義、練習問題
	3	2章 読み物1・2	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識A (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・1章 読み物1	講義、練習問題
	2	1章 話す・聴解	講義、練習問題、会話練習
	3	2章 読み物2	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識A (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・自己紹介文作成	講義
	2	1章 読み物2	講義、練習問題
	3	1章 文法	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識B (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 書く・聴解	講義、練習問題
	18	3章 ディスカッション	講義、練習問題
	19	3章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	20	4章 ワークブック・文法解説	講義、練習問題
	21	5章 読み物1	講義、練習問題
	22	5章 ワークブック・文法解説	講義、練習問題
	23	6章 読み物2	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義、練習問題
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識B (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物1	講義、練習問題
	18	3章 話す・ディスカッション	講義、練習問題
	19	4章 読み物1	講義、練習問題
	20	4章 話す・ディスカッション	講義、練習問題
	21	5章 読み物1	講義、練習問題
	22	5章 話す・ディスカッション	講義、練習問題
	23	6章 読み物1	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義、練習問題
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識B (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 読み物1	講義、練習問題
	18	2章 ワークブック	講義、練習問題
	19	3章 読み物1	講義、練習問題
	20	3章 ワークブック	講義、練習問題
	21	3章 聴解・文型確認	講義、練習問題
	22	4章 読み物1	講義、練習問題
	23	4章 ワークブック	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現A (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物2・ワークブック	講義、練習問題
	2	1章 聴解・ワークブック	講義、練習問題
	3	2章 ディスカッション	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現A (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物1・2	講義、練習問題
	2	1章 ワークブック・読み物1	講義、練習問題
	3	2章 ワークブック	講義、練習問題、口頭練習
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現A (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物1	講義、練習問題
	2	1章 作文	講義、練習問題
	3	1章 聴解・ワークブック	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現B (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物1	講義、練習問題
	18	3章 ワークブック	講義、練習問題
	19	4章 読み物1	講義、練習問題
	20	4章 作文	講義、練習問題
	21	5章 読み物2	講義、練習問題
	22	5章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	23	6章 作文	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現B (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物2	講義、練習問題
	18	3章 作文	講義、練習問題
	19	4章 読み物2	講義、練習問題
	20	4章 作文	講義、練習問題
	21	5章 読み物2	講義、練習問題
	22	5章 作文	講義、練習問題
	23	6章 読み物2	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義、練習問題
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現B (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 読み物2	講義、練習問題
	18	2章話す	講義、練習問題
	19	3章 読み物2	講義、練習問題
	20	3章 話す・ワークブック	講義、練習問題
	21	3章 まとめ	講義、練習問題
	22	4章 読み物2	講義、練習問題
	23	4章 作文	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語A (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 ディスカッション	講義、練習問題
	2	1章 聴解・ワークブック	講義、練習問題
	3	2章 作文	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語A (N2)	指導担当名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 作文	講義、練習問題
	2	1章 読み物1・2	講義、練習問題、口頭練習
	3	2章 作文・聴解	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語A (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物1・文法	講義、練習問題
	2	1章 読み物2・会話	講義、練習問題、会話練習
	3	1章 ワークブック	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語B (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物2	講義、練習問題
	18	3章 書く	講義、練習問題
	19	4章 読み物2	講義、練習問題
	20	4章 話す・聴解	講義、練習問題
	21	5章 ディスカッション	講義、練習問題
	22	6章 読み物1	講義、練習問題
	23	6章 ディスカッション	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語B (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 ワークブック	講義、練習問題
	18	3章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	19	4章 ワークブック	講義、練習問題
	20	4章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	21	5章ワークブック	講義、練習問題
	22	5章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	23	6章 ワークブック	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語B (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 読み物1・2 文型確認	講義、練習問題
	18	2章 作文・聴解	講義、練習問題
	19	2章 まとめ	講義、練習問題
	20	3章 作文	講義、練習問題
	21	3章 まとめ・4章 読み物1	講義、練習問題
	22	4章 話す・文型確認	講義、練習問題
	23	4章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナー I	指導担当者名	鶴巻裕之	
実務経験	-	実務経験:	有	
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	日本で暮らしていくための最低限のマナーを習得していく			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF4級			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	2	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	3	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	4	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	5	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	6	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	7	日本の社会	人口、インフラ、治安について	
	8	日本の社会	物価とこれからの日本	
	9	すまい	一戸建て、アパート、マンションの区別など	
	10	すまい	生活するための規則	
	11	食事	マナーなど	
	12	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	13	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	14	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	15	交通ルール	基本ルール	
	16	交通ルール	歩行者と自転車、バイク、自動車	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナー I	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	実例や生徒たちの経験談をもとに理解を深めていく		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF4級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく
	18	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく
	19	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく
	20	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など
	21	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など
	22	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など
	23	身だしなみ	服装、髪型、アクセサリーなど
	24	ビジネスマナー	ロールプレイを通して実感、理解していく
	25	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく
	26	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく
	27	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく
	28	その他注意すべきこと	ハラスメントなど
	29	その他注意すべきこと	日常生活での注意事項
	30	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく
31	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく	
32	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習 I	指導担当者名	小針代里子
実務経験	-		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	パソコンの基礎(タイピング、エクセル)を学び、日本語での文書作成や基礎的なデータ処理ができる		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	留学生のためのかんたんExcel入門		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション/設定	講義、演習
	2	1章 1-1 パソコンの種類と起動 1章 1-2 マウスの操作	講義、演習
	3	1章 1-3 Windowsの画面とアプリケーションの起動	講義、演習
	4	1章 1-4 キーボードの名称と機能 1章 1-5 ローマ字・ひらがな・漢字	講義、演習
	5	1章 1-6 タッチタイピング 1章 1-7 入力モードと日本語IME	講義、演習
	6	1章 1-8 ひらがなの入力と漢字変換 タイピング練習(1)	講義、演習
	7	2章 フォルダーやファイル操作の基本編	講義、演習
	8	タイピング練習(1)	演習
	9	3章 3-1 Excelの基本	講義、演習
	10	3章 3-2 セル操作の基本	講義、演習
	11	3章 3-3 セルの編集	講義、演習
	12	3章 3-4 表の編集①	講義、演習
	13	3章 3-4 表の編集②	講義、演習
	14	期末試験	試験
	15	タイピング練習(2)	演習
	16	3章 3-5 式と計算の基本	講義、演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習 I	指導担当者名	小針代里子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	パソコンの基礎(タイピング、エクセル)を学び、日本語での文書作成や基礎的なデータ処理ができる		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	留学生のためのかんたんExcel入門		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	17	3章 3-6 相対参照・絶対参照①	講義、演習
	18	3章 3-6 相対参照・絶対参照②	講義、演習
	19	3章 3-7 表の式と計算	講義、演習
	20	3章 3-8 グラフ機能	講義、演習
	21	3章 3-9 棒グラフ	講義、演習
	22	3章 3-10 折れ線グラフ・箱ひげ図	講義、演習
	23	3章 3-11 シート間の参照と画像・図形の挿入	講義、演習
	24	3章 3-12 関数と数式の基本①	講義、演習
	25	3章 3-13 関数と数式の基本②	講義、演習
	26	3章 3-13 条件分岐と論理式①	講義、演習
	27	3章 3-13 条件分岐と論理式②	講義、演習
	28	3章 3-14 データの抽出	講義、演習
	29	3章 3-15 データの並べ替え	講義、演習
	30	期末試験	試験
31	総復習	演習	
32	総復習	演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎Ⅱ	指導担当者名	高橋大祐・石井陽寿
実務経験	—		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: — 実験: —
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でのビジネスについての作法を理解し、実践できる。 ・日本の就職活動文化を理解し実践ができる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	留学生のための就職内定ワークブック		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	履歴書作成①	歴書記入事項確認
	2	履歴書作成②	履歴書記入①
	3	履歴書作成③	履歴書記入②
	4	履歴書作成④	履歴書添削、修正
	5	自己PR、志望動機①	自分の強み弱みの確認
	6	自己PR、志望動機②	自己PR書き方、まとめ方
	7	自己PR、志望動機③	企業研究の方法と内容確認
	8	自己PR、志望動機④	企業研究から考える志望動機の記載方法
	9	求人票の見方	労働条件に関する日本語の理解
	10	服装マナー	服装に関するマナーの理解
	11	面接の手順とマナー	面接の手順の理解と実践
	12	面接練習①	面接を通し実戦練習
	13	面接練習②	面接を通し実戦練習
	14	面接練習③	面接を通し実戦練習
	15	面接練習④	面接を通し実戦練習
	16	就職活動まとめ	就職活動に必要な知識の復習
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎Ⅱ		指導担当者名	高橋大祐・石井陽寿	
実務経験	-			実務経験:	
開講時期	通期		対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でのビジネスについての作法を理解し、実践できる。 ・日本の就職活動文化を理解し実践ができる 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	留学生のための就職内定ワークブック				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	内定	内定の手続きについての確認		
	18	在留資格	在留資格の知識と今後の手続きについて		
	19	卒業後も就職活動を続けるために	進路が決まらなかった場合の在留資格の知識		
	20	働き始める前に知っておくべきこと	日本での働き方についての確認		
	21	外国人新入社員のためのビジネスマナー①	新入社員として必要なビジネスマナーの確認		
	22	外国人新入社員のためのビジネスマナー②	新入社員として必要なビジネスマナーの実践		
	23	あいさつのマナー①	あいさつのマナーについての確認		
	24	あいさつのマナー②	あいさつのマナーについての確認		
	25	社内コミュニケーションのマナー①	社内でのコミュニケーションの注意点の確認		
	26	社内コミュニケーションのマナー②	社内でのコミュニケーションの注意点の実践		
	27	席次のマナー①	席次マナーの確認		
	28	席次のマナー②	席次マナーの実践		
	29	名刺交換のマナー①	名刺交換に必要な手順、マナーの確認		
	30	名刺交換のマナー②	名刺交換に必要な手順、マナーの実践		
31	その他ビジネスマナー	その他必要なビジネスマナーについての確認と実践			
32	入社後ビジネスマナーまとめ	日本の会社に入社後に必要な知識の総復習			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義・問題演習
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ホテル検定対策	指導担当者名	木村美紀子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ホテルビジネスで必要不可欠な要素を基本から学び、身に付ける。 ホテル実務技能認定検定の取得を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ホテルテキスト 宿泊Ⅰ フロント・オフィス編 / ホテルテキスト 宿泊Ⅱ フロント・サービス編 ホテルテキスト ホテル業務関連知識 / ホテル実務技能認定試験 初級 問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	フロント・オフィス編 第1章～第2章	ホテル実務検定とは/授業スケジュールの説明/フロントオフィスとは/客室タイプと料金
	2	フロント・オフィス編 第3章	リザーベーション業務
	3	フロント・オフィス編 第3章	リザーベーション業務
	4	フロント・オフィス編 第4章	レセプション業務
	5	フロント・オフィス編 第5章	フロントキャッシャー業務
	6	フロント・オフィス編 第6章～第7章	インフォメーション業務/防犯業務
	7	フロント・オフィス編 第6章～第7章	インフォメーション業務/防犯業務
	8	フロント・サービス編 第1章～第2章	宿泊部門の業務/ドアマン
	9	フロント・サービス編 第3章	ベルマン
	10	フロント・サービス編 第4章	クローク
	11	フロント・サービス編 第5章	客室部門(ハウスキーピング)
	12	フロント・サービス編 第6章	コンシェルジュ
	13	ホテル業務関連知識	プロトコル/ホテル業界の動向/マーケティング
	14	まとめテスト	
	15	まとめテスト解説	解説
	16	ホテル業界関連知識/問題集	プロトコル/ホテル業界の動向/マーケティング/問題集の練習問題/過去問題
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ホテル検定対策	指導担当者名	木村美紀子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ◎	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ホテルビジネスで必要不可欠な要素を基本から学び、身に付ける。 ホテル実務技能認定検定の取得を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ホテルテキスト 宿泊Ⅰ フロント・オフィス編 / ホテルテキスト 宿泊Ⅱ フロント・サービス編 ホテルテキスト ホテル業務関連知識 / ホテル実務技能認定試験 初級 問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	フロントオフィス編のまとめ	検定試験に向けての復習
	18	フロントオフィス編のまとめ	検定試験に向けての復習
	19	フロントサービス編のまとめ	検定試験に向けての復習
	20	関連知識解説	検定試験に向けての復習
	21	問題練習	検定試験に向けての復習
	22	問題練習	問題練習解説
	23	検定試験	試験実施
	24	検定試験解説	解説
	25	ホテルの業務に必要なおもてなし	言葉使い
	26	ホテルの業務に必要なおもてなし	電話対応練習
	27	ホテルの業務に必要なおもてなし	お茶の入れ方、コーヒーの淹れ方
	28	ホテルの業務に必要なおもてなし	テーブルセッティング
	29	ホテル実習	実際にホテルにて現場研修
	30	後期試験	試験実施
	31	後期試験解説	解説
32	ホテル業務のまとめ	まとめ	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナーⅡ	指導担当者名	鶴巻裕之	
実務経験	-		実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数 2 時間
学習到達目標	日本で暮らしていくための最低限のマナーを習得していく			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF4級			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	2	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	3	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	4	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	5	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	6	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	7	日本の社会	人口、インフラ、治安について	
	8	日本の社会	物価とこれからの日本	
	9	すまい	一戸建て、アパート、マンションの区別など	
	10	すまい	生活するための規則	
	11	食事	マナーなど	
	12	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	13	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	14	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	15	交通ルール	基本ルール	
	16	交通ルール	歩行者と自転車、バイク、自動車	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナーⅡ		指導担当者名	鶴巻裕之	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年		国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	実例や生徒たちの経験談をもとに理解を深めていく				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF4級				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく		
	18	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく		
	19	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく		
	20	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など		
	21	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など		
	22	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など		
	23	身だしなみ	服装、髪型、アクセサリーなど		
	24	ビジネスマナー	ロールプレイを通して実感、理解していく		
	25	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく		
	26	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく		
	27	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく		
	28	その他注意すべきこと	ハラスメントなど		
	29	その他注意すべきこと	日常生活での注意事項		
	30	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく		
31	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく			
32	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習Ⅱ	指導担当者名	小針代里子
実務経験	-		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・EXCEL表計算処理技能認定試験3級合格 ・ビジネスで求められるエクセルの基本を理解実践できる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	練習問題1	実技問題1
	2	練習問題1	実技問題2
	3	練習問題1	実技問題3
	4	練習問題1	実技問題4、5
	5	練習問題2	実技問題1
	6	練習問題2	実技問題2
	7	練習問題2	実技問題3
	8	練習問題2	実技問題4、5
	9	練習問題3	実技問題1
	10	練習問題3	実技問題2
	11	練習問題3	実技問題3
	12	練習問題3	実技問題4、5
	13	模擬試験1	模擬試験の実施、解説
	14	模擬試験2	模擬試験の実施、解説
	15	模擬試験3	模擬試験の実施、解説
	16	期末試験	試験
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習Ⅱ		指導担当者名	小針代里子	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期		対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年	
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	ビジネスで求められるエクセルの基本を理解実践できる				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	基本操作復習1	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	18	基本操作復習2	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	19	基本操作復習3	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	20	基本操作復習4	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	21	基本操作復習5	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	22	基本操作復習6	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	23	基本操作復習7	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	24	基本操作復習8	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	25	いろいろな関数1	SUM, AVERAGE, IF, IFS, VLOOKUP		
	26	いろいろな関数2	COUNTA, MIN, MAX, SUMIF		
	27	いろいろな関数3	ROUNDDOWN, ROUNDUP, SUBTOTAL, COUNTIF		
	28	いろいろな関数4	CONCATENATE, MODE.MULT, LARGE, SMALL		
	29	VBAプログラム入門1	開発タブの表示、マクロ概論		
	30	VBAプログラム入門2	マクロの記録		
31	VBAプログラム入門3	Visual Basicを使ったプログラム起動、起動ボタンの設置			
32	期末試験	期末試験			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスコミュニケーション	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ビジネスマナーを含めた対応、会話がスムーズに成立することを目指す。加えて、丸覚えのフレーズだけではなく、学んだボキャブラリーを使い分けて、柔軟なコミュニケーションが取れるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ビジネスための日本語 初中級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	紹介	自己紹介
	2	紹介	他人紹介
	3	紹介	ロールプレイ
	4	あいさつ	出社、退社のあいさつ
	5	あいさつ	新職場、訪問先の受付、社外の人へのあいさつ
	6	あいさつ	ロールプレイ
	7	許可	意向を尋ねて、休暇、早退などの許可
	8	許可	許可されない場合の対応
	9	許可	ロールプレイ
	10	依頼	様々な場面での依頼表現
	11	依頼	ロールプレイ
	12	依頼	オリジナルスキットによるロールプレイ
	13	誘い	様々な場面での誘う表現
	14	誘い	ロールプレイ
	15	誘い	オリジナルスキットによるロールプレイ
	16	まとめ	オリジナルスキットによるロールプレイ
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスコミュニケーション	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	前期の学び、習得した内容を踏まえて、より実践的な授業内容とし、ビジネスコミュニケーションの能力を高める。就職後に弊害なく日本社会で活躍出来るスキルを身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ビジネスのための日本語 初中級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	電話	電話対応全般
	18	電話	ロールプレイ
	19	電話	オリジナルスキットロールプレイ
	20	アポイント	日時などの設定と変更、確認など
	21	アポイント	ロールプレイ
	22	アポイント	オリジナルスキットロールプレイ
	23	提案・申し出	上司、会議などでの提案や申し出。断り方。断られた場合の対応
	24	提案・申し出	ロールプレイ
	25	提案・申し出	オリジナルスキットロールプレイ
	26	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	27	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	28	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	29	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	30	まとめ	総復習
	31	まとめ	総復習
32	まとめ	総復習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスライティング演習	指導担当者名	石山 蓮	
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年	
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: -	実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	専門学校2年間の学びの集大成として、各自学科の授業内容からテーマを見つけて研究発表をする			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	指導担当者作成のプリント			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	テーマの選定	各自研究のテーマについて決定する	
	18	研究の進め方	選択したテーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、研究方法を各自プレゼンテーションする	
	19	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)	
	20	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)	
	21	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)	
	22	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)	
	23	中間検討 I	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する	
	24	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	25	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	26	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	27	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	28	中間検討 II	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で検討しあう	
	29	中間検討 II	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で検討しあう	
	30	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など	
31	報告会	研究成果の発表		
32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	宿泊レストランサービス	指導担当者名	木村美紀子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ホテル料飲部門の知識およびレストランサービスの技術を習得する。更に学生自らレストランをオープンさせる計画を立てる。お客様が喜び、選ばれるレストランになるべく、店内コーディネート、サービス方法等を考え1日だけオープンさせる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ウィネット「テキスト料飲 I レストラン宴会編」、職業訓練教材研究会「レストランサービススタンダードマニュアル」		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	料飲部門の概要	組織、什器・備品の知識
	2	メニュー	定食と一品料理
	3	西洋料理の基礎知識	フルコースの解説
	4	西洋料理の基礎知識	西洋料理テーブルマナー
	5	朝食の基本料理	バイキング、定食について
	6	朝食の基本料理	サービスのポイント
	7	日本料理、中国料理	献立、配膳図、テーブルマナー
	8	レストラン概要	レストランの収入
	9	レストランサービス	レストランサービスの手順
	10	レストラン運営の基本	原価管理、F&Bコストコントローラー
	11	宴会予約・宴会サービス	予約業務、コントロールブック
	12	宴会予約・宴会サービス	宴会サービス業務、宴会形式
	13	婚礼サービスの知識	挙式、披露宴について
	14	まとめ	総仕上げ
	15	前期試験	
	16	レストラン宴会編のまとめ	試験解説と検定対策
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	宿泊レストランサービス		指導担当者名	木村美紀子	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期		対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年	
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: -	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	ホテル料飲部門の知識およびレストランサービスの技術を習得する。更に学生自らレストランをオープンさせる計画を立てる。お客様が喜び、選ばれるレストランになるべく、店内コーディネート、サービス方法等を考え1日だけオープンさせる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	ウィネット「テキスト料飲 I レストラン宴会編」、職業訓練教材研究会「レストランサービススタンダードマニュアル」				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	レストラン企画の目的	集客について必要なこと。経営について		
	18	レストラン企画	レストランについて(ターゲット、店名、メニュー、価格帯、サービス形態、広報方法等検討)		
	19	レストラン企画	テーブルコーディネート決定小物作成、ポスター作製、集客		
	20	レストラン下見	フード校舎にて見学		
	21	レストラン運営準備	テーブルコーディネート決定小物作成、ポスター作製、集客		
	22	レストラン下見	テーブルコーディネート決定小物作成、ポスター作製、集客		
	23	レストラン運営準備	テーブルコーディネート決定小物作成、ポスター作製、集客		
	24	レストラン運営準備	テーブルコーディネート決定小物作成、ポスター作製、集客		
	25	レストラン運営準備	レストランオープンに向けてサービス練習、準備		
	26	本番	受付、テーブルコーディネート、サービスすべて実施		
	27	レストラン運営振り返り	振り返りと改善点練習		
	28	レストランサービス	レストランサービス練習		
	29	後期試験	後期試験		
	30	まとめ	後期試験解説		
	31	ホテルの業務練習	業務練習		
32	ホテルの業務練習	まとめ			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	ホテル実務	指導担当者名	木村美紀子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ホテル業務(宿泊部門・料飲部門)についての知識を習得する		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ホテルテキスト 宿泊Ⅰ フロント・オフィス編 / ホテルテキスト 宿泊Ⅱ フロント・サービス編 ホテルテキスト ホテル業務関連知識 / ホテル実務技能認定試験 初級 問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	フロント・オフィス編 第1章～第2章	ホテル実務検定とは/授業スケジュールの説明/フロントオフィスとは/客室タイプと料金
	2	フロント・オフィス編 第3章	リザーベーション業務
	3	フロント・オフィス編 第3章	リザーベーション業務
	4	フロント・オフィス編 第4章	レセプション業務
	5	フロント・オフィス編 第5章	フロントキャッシャー業務
	6	フロント・オフィス編 第6章～第7章	インフォメーション業務/防犯業務
	7	フロント・オフィス編 第6章～第7章	インフォメーション業務/防犯業務
	8	フロント・サービス編 第1章～第2章	宿泊部門の業務/ドアマン
	9	フロント・サービス編 第3章	ベルマン
	10	フロント・サービス編 第4章	クローク
	11	フロント・サービス編 第5章	客室部門(ハウスキーピング)
	12	フロント・サービス編 第6章	コンシェルジュ
	13	ホテル業務関連知識	プロトコル/ホテル業界の動向/マーケティング
	14	まとめテスト	
	15	まとめテスト解説	解説
	16	ホテル業界関連知識/問題集	プロトコル/ホテル業界の動向/マーケティング/問題集の練習問題/過去問題
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ホテル実務		指導担当者名	木村美紀子	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期		対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年	
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標					
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材					
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	料飲部門の概要	組織、什器・備品の知識		
	18	メニュー	定食と一品料理		
	19	西洋料理の基礎知識	フルコースの解説		
	20	西洋料理の基礎知識	西洋料理テーブルマナー		
	21	朝食の基本料理	バイキング、定食について		
	22	朝食の基本料理	サービスのポイント		
	23	日本料理、中国料理	献立、配膳図、テーブルマナー		
	24	レストラン概要	レストランの収入		
	25	レストランサービス	レストランサービスの手順		
	26	レストラン運営の基本	原価管理、F&Bコストコントローラー		
	27	宴会予約・宴会サービス	予約業務、コントロールブック		
	28	宴会予約・宴会サービス	宴会サービス業務、宴会形式		
	29	婚礼サービスの知識	挙式、披露宴について		
	30	まとめ	総仕上げ		
31	後期試験				
32	レストラン宴会編のまとめ	試験解説			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	おもてなしマナー	指導担当者名	木村美紀子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ホテル宿泊部門、料飲部門の会話や実技について正しい日本語の使い方を学び練習しながら実技も身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	アスク ホテルの日本語		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ドアマンの仕事	お出向え時の会話と動作
	2	ドアマンの仕事	ロールプレイング
	3	フロントの仕事	チェックイン時の会話と動作
	4	フロントの仕事	ロールプレイング
	5	ベルスタッフの仕事	案内と誘導時の会話と動作
	6	ベルスタッフの仕事	ロールプレイング
	7	ハウスキーパーの仕事	ハウスキーパーの会話と動作
	8	ハウスキーパーの仕事	ロールプレイング
	9	ルームスタッフの仕事	ルームサービススタッフの会話と動作練習
	10	ルームスタッフの仕事	ロールプレイング
	11	コンシェルジュの仕事	お客様対応
	12	コンシェルジュの仕事	ロールプレイング
	13	フロントの仕事	チェックアウトの会話と動作
	14	前期試験	実施
	15	前期試験解説	まとめ解説
	16	クレーム対応	事例と対応方法
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	おもてなしマナー	指導担当者名	木村美紀子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ホテル宿泊部門、料飲部門の会話や実技について正しい日本語の使い方を学び練習しながら実技も身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	アスク ホテルの日本語		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	ホテルの業務に必要なおもてなし	言葉使い
	18	ホテルの業務に必要なおもてなし	電話応対練習
	19	ホテルの業務に必要なおもてなし	お茶の入れ方、コーヒーの淹れ方
	20	ホテルの業務に必要なおもてなし	テーブルセッティング
	21	ホテル実習	実際にホテルにて現場研修
	22	ホテルレストランサービス練習	サービスの仕方班ごとに練習
	23	ホテルレストランサービス練習	サービスの仕方班ごとに練習
	24	ホテルレストランサービス練習	サービスの仕方班ごとに練習
	25	ホテルレストランサービス練習	サービスの仕方班ごとに練習
	26	ホテル実習	実際にホテルにて現場研修
	27	ホテル実習のまとめ	レポートまとめ
	28	ホテルレストランサービス練習	サービスの仕方班ごとに練習
	29	ホテルレストランサービス練習	サービスの仕方班ごとに練習
	30	後期試験	試験実施
	31	後期試験解説	解説
32	ホテル業務のまとめ	まとめ	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	英会話	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: 一 実験: ○
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ホテルや旅館で外国のお客様に対応できるように、初級～中級レベルの英語を身につけることを目標とする。 国際社会において、シンプルでも失礼のない英語で対応する大切さを理解する。 ホテル・旅館の接客関連、観光関連の単語やフレーズを身につける。 簡単な英語で観光地や食べ物、日本文化の紹介ができるようになる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	講師作成教材・グループで作成したオリジナルスクリプト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション、自己紹介 ホテル業務①:ホテルの仕事、基本フレーズ	授業の目的と流れ説明、英語で自己紹介 ホテル業務で使う基本フレーズ(敬称・挨拶・案内・予約受付などの基礎)の確認
	2	日本文化①:四季と行事 ホテル業務②:ホテル・旅館予約対応	春夏秋冬の行事と意味を学ぶ(花見、七夕、お盆、紅葉、年末年始などの説明) 予約対応の基本の確認
	3	日本文化②:礼儀・マナー・あいさつ ホテル業務③:チェックイン対応	日本独特の礼儀・マナーを学び、英語で説明チェックイン手続き(予約確認・パスポートの受け取り・部屋案内など)の確認
	4	ホテル業務③:チェックイン対応 1～4タームの復習	チェックイン手続きの確認、ゲストの要望に対応(部屋変更、アメニティ) 1～4タームで学んだフレーズ、会話の復習
	5	ホテル業務④:館内案内	ホテルの施設・設備説明(レストラン・温泉など「どこに何がある?」を適切に伝える)
	6	日本文化③:お土産・特産品	ゲストの興味に合わせたお土産、購入場所の提案、地域のお土産紹介 手土産・お歳暮・のし紙の使い方と表現
	7	ホテル業務⑤:周辺案内、アクセス方法	ゲストの要望に合わせた周辺の環境、施設の案内 アクセス方法や交通手段(電車・バス・タクシー)などの英語案内
	8	ホテル業務⑥:周辺の観光案内 5～8タームの復習	ゲストの興味に合わせた観光スポットの案内 アクセス方法や交通手段(電車・バス・タクシー)などの英語案内
	9	ホテル業務⑦:食事・レストランの案内	席への案内、メニュー説明、注文対応などの基本表現の確認 和食の種類や特徴、箸の使い方などのマナーを英語で説明
	10	日本文化④:日本酒	日本のお酒の種類を紹介、日本の飲酒マナーや文化(乾杯、居酒屋文化など)を説明 外国人観光客の質問に英語で対応
	11	ホテル業務⑧:電話応対・リクエスト対応	ゲスト滞在中の基本的な電話応対、モーニングコール、追加タオルなどのやり取りを練習
	12	ホテル業務⑨:チェックアウト対応	チェックアウト手続き(鍵の受け取り、支払い方法、領収書発行など)の確認
	13	ホテル業務⑩:トラブル・非常時の対応 9～13の復習	エアコン故障・部屋の苦情などへの対応(丁寧な謝罪・提案の英語表現)、忘れ物・迷子・体調不良などの対応
	14	ホテル業務総復習:ロールプレイ	ホテル業務①～⑩で学んだことをロールプレイを中心に復習 日本のマナー・礼儀なども業務の一環として英語で説明
	15	実技試験	課題の場面から1つ選択し、英語のみでゲスト対応をする
	16	期末試験(筆記)	前期学習内容の筆記試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	英会話	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ○
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<p>ホテルや旅館で外国のお客様に対応できるように、初級～中級レベルの英語を身につけることを目標とする。 国際社会において、シンプルでも失礼のない英語で対応する大切さを理解する。 ホテル・旅館の接客関連、観光関連の単語やフレーズを身につける。 簡単な英語で観光地や食べ物、日本文化の紹介ができるようになる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	講師作成教材・グループで作成したオリジナルスクリプト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	旅館業務①:チェックイン対応 日本文化⑤:建築と住まいの文化	チェックイン手続きの確認 城、町家、神社仏閣といった伝統的建築、和室・障子・ふすま・縁側といった住まい文化を学び、英語で説明
	18	旅館業務②:和室・旅館の特徴説明	和室・布団の使い方、靴を脱ぐ文化、浴衣の着方、湯茶サービスなど旅館特有の施設・ルールの説明
	19	旅館業務③:温泉・大浴場の案内	脱衣所・入浴マナー、設備の使い方(サウナ、露天風呂など)などの案内
	20	日本文化⑥:神社・お寺・祭り 17～20タームの復習	神道と仏教の違い、参拝方法、代表的なお祭りを学び、英語で紹介 17～20タームで学んだフレーズ、会話の復習
	21	旅館業務④:朝食サービス	朝食時間・会場、朝食のスタイル、食べ物の説明、提供時の対応 食事に関するQ&Aの練習
	22	日本文化⑦:茶道・和服・武道	茶道・和服・武道などの日本の伝統文化を学び、英語で紹介
	23	旅館業務⑤:夕食・宴会サービス	夕食時間・会場、お品書き(食べ物)の説明、お酒の提供時の対応 部屋で食事をとる場合の対応
	24	日本文化⑧:ポップカルチャー 21～24タームの復習	海外でも人気のあるアニメ・マンガ・ゲームやJ-POP・カラオケ文化などを英語で紹介し、ディスカッション 21～24タームで学んだフレーズ、会話の復習
	25	旅館業務⑥:チェックアウト対応	チェックアウト手続き(鍵の受け取り、支払い方法、領収書発行など)の確認 お見送り対応
	26	日本文化⑨:日本の災害と対応	地震・台風への備え、避難所や非常食などを英語で説明 福島県の震災・復興について学ぶ
	27	旅館業務⑦:特別なリクエストに対する対応 25～27タームの復習	文化・宗教・身体的配慮など多様なゲストへの対応を考え、ディスカッション 25～27タームで学んだフレーズ、会話の復習
	28	観光案内①:福島県の文化・ガイド	福島県の歴史・文化(温泉、特産物、祭りなど)を英語で紹介 福島県のおすすめコースガイドの作成
	29	観光案内②:自国の文化・ガイド	自国の歴史・文化を英語で紹介 自国のおすすめコースガイドの作成
	30	旅館業務総復習:ロールプレイ	旅館業務①～⑦で学んだことをロールプレイを中心に復習 日本の文化・慣習なども業務の一環として英語で説明
31	実技試験	課題の場面から1つ選択し、英語のみでゲスト対応をする	
32	期末試験(筆記)	前期学習内容の筆記試験	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	観光実務	指導担当者名	相山 進
実務経験	1981年 - 2024年 43年 営業・添乗・企画・管理		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
	日本の地理・文化・観光名所の学習。世界遺産の学習。学習した知識と成果をプレゼンできる人材を目指す。研修旅行の実施にあたり、学生同士の意見を調整しスケジュールを作成して、同行する学生の喜んでもらえる研修旅行を実施・案内する。意義な研修旅行を実施する。観光実務の学習を通し身につけた知識をいかし、お客様に喜んでいただける職業人になるための実務・実践を学習する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	パソコン、スマートホン、各観光地の地図・資料・パンフレット		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	自己紹介	自己紹介を文章形式で作成・発表
	2	世界の文化・習慣	日本と出身国との文化の違い
	3	日本を知る ①	都道府県・県庁所在地の学習
	4	日本を知る ②	有名な観光地の学習
	5	日本を知る ③	有名な温泉地の学習
	6	研修旅行準備 ①	研修旅行の目的にそって行先・研修・観光地を調べる学習
	7	研修旅行準備 ②	方面事にグループ分けをして、スケジュールをグループ毎に作成
	8	研修旅行準備 ③	グループ毎に作成した行程をプレゼン
	9	研修旅行準備 ④	研修旅行先の決定
	10	研修旅行準備 ⑤	研修旅行概要のまとめ
	11	しおり作成 ①	最終行程表(しおり)の概要
	12	しおり作成 ②	集合・準備品・諸注意事項
	13	しおり作成 ③	最終行程表(しおり)の完成
	14	期末試験準備	試験準備(模擬試験など)
	15	期末試験準備	期末試験実施
	16	期末試験振り返り	振り返り
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	観光実務		指導担当者名	相山 進	
実務経験	1981年 - 2024年 43年 営業・添乗・企画・管理			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ○	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	日本の地理・文化・観光名所の学習。世界遺産の学習。学習した知識と成果をプレゼンできる人材を目指す。研修旅行の実施にあたり、学生同士の意見を調整しスケジュールを作成して、同行する学生の喜んでもらえる研修旅行を実施・案内する。意義な研修旅行を実施する。観光実務の学習を通し身につけた知識をいかし、お客様に喜んでいただける職業人になるための実務・実践を学習する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	パソコン、スマートホン、各観光地の地図・資料・パンフレット				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	しおり作成 ④	最終行程表(しおり)の最終確認・準備(学生用・引率用)		
	18	研修旅行ルート発表のための模擬練習	最終行程表(しおり)を使用しての予行練習		
	19	研修旅行ルート発表	研修旅行スケジュール・集合時間の周知。準備品(持ち物)の確認。諸注意事項の確認		
	20	ガイド練習	研修旅行での役割分担・事前学習。ホテルでの館内説明(部屋・レストラン・Wi-Fiなど)		
	21	研修旅行に向けた最終確認	役割分担の最終確認。集合場所・時間の周知徹底。準備品(持ち物)の確認。諸注意事項。		
	22	研修旅行	研修旅行の実施		
	23	研修旅行振り返り	振り返り		
	24	世界遺産 ①	世界遺産の学習(日本)		
	25	世界遺産 ②	世界遺産の学習(アジア)		
	26	世界遺産 ③	世界遺産の学習(アジア以外)		
	27	世界の文化・地理	母国の家族・友人を日本に招待し案内するスケジュールを作成・発表		
	28	学生生活を振り返って ①	卒論形式で作成(パワーポイント、エクセル、ワードなど)		
	29	学生生活を振り返って ②	発表形式		
	30	期末試験準備	試験準備(模擬試験など)		
31	期末試験準備	期末試験実施			
32	期末試験振り返り	振り返り			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	飲食ビジネス実務	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での就労および特定技能について正しく理解する。 ・外食業に関する知識を習得する。 ・外食業に関する実務的なスキルを習得する。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	特定技能1号 外食業技能測定試験 学習用テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	日本のビザについて①	日本で生活する為のビザ知識
	2	日本のビザについて②	日本で生活する為のビザ知識
	3	特定技能ビザについて①	日本で生活する為のビザ知識
	4	特定技能ビザについて②	日本で生活する為のビザ知識
	5	特定技能試験について	特定技能試験の受験方法・留意点
	6	接客全般 接客に関する知識①	接客サービスにおける必要知識およびスキル
	7	接客全般 接客に関する知識②	接客サービスにおける必要知識およびスキル
	8	接客全般 接客に関する知識③	接客サービスにおける必要知識およびスキル
	9	接客全般 食に関する知識①	アレルギーや栄養等に関する必要知識
	10	接客全般 食に関する知識②	アレルギーや栄養等に関する必要知識
	11	接客全般 食に関する知識③	アレルギーや栄養等に関する必要知識
	12	接客全般 店舗管理に関する知識①	店舗営業準備、閉店作業等
	13	接客全般 店舗管理に関する知識②	清掃、経理処理
	14	接客全般 クレーム対応に関する知識	お客様対応
	15	接客全般 緊急時の対応に関する知識	体調不良者および災害発生時の対応
	16	接客全般 まとめ	接客全般についてのまとめ及び諸注意事項の理解
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	飲食ビジネス実務	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ホテル観光コース2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本での就労および特定技能について正しく理解する。 ・外食業に関する知識を習得する。 ・外食業に関する実務的なスキルを習得する。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	衛生管理 基本的な衛生管理の知識	食中毒に関する知識と予防
	18	衛生管理 一般的衛生管理の知識①	店舗における衛生管理上の必要知識
	19	衛生管理 一般的衛生管理の知識②	店舗における衛生管理上の必要知識
	20	衛生管理 一般的衛生管理の知識③	店舗における衛生管理上の必要知識
	21	衛生管理 HACCP①	HACCPについての理解
	22	衛生管理 HACCP②	HACCPについての理解
	23	衛生管理 まとめ	衛生管理についてのまとめ及び諸注意事項の理解
	24	飲食物調理 食材(原材料)に関する知識	肉類・魚介類・野菜・果実類に関する知識
	25	飲食物調理 下処理に関する知識①	下処理の目的
	26	飲食物調理 下処理に関する知識②	野菜・魚介類の下処理
	27	飲食物調理 各調理方法に関する知識	加熱調理と非加熱調理
	28	飲食物調理 調理機器、調理器具、備品に関する知識	調理機器等についての必要知識
	29	飲食物調理 労働安全衛生に関する知識①	調理場における労働安全衛生
	30	飲食物調理 労働安全衛生に関する知識②	調理機器やその他の器具・備品等
31	飲食物調理 まとめ	飲食物調理についてのまとめ及び諸注意事項の理解	
32	外食業に関する総まとめ	外食業全般の確認	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			